

A-2b-7 ツバキに含まれるフラボノイド化合物と抗酸化性：小野寺 健一、花城 薫

<p>研究の概要、新規性及び目標</p> <p>① 研究の概要 ツバキ葉中に含有する抗アレルギー成分探索の過程でフラボノイド化合物がその候補として挙がってきたが、精査の結果、探索していた化学物質ではなかったまでも、強い抗酸化性を示す未知成分と判明したため、その化学構造解明を目的とし研究を行った。</p> <p>② 研究の独自性・新規性 強い抗酸化性を示す未知成分はその構造に新規性が認められ、我々の身体の酸化を防ぐ効果を持つ機能性食品としての利用も期待された。</p> <p>③ 研究の目標 フェーズⅠ：ツバキ葉中の抗酸化成分の単離、構造決定 フェーズⅡ：抗酸化成分の各種試験用のための供給体制確立</p>
<p>研究の進め方及び進捗状況、主な成果</p> <p>ツバキ葉抽出物に含有された1種の新規抗酸化成分の単離、構造決定に成功したが、構造に新規性が認められたものの、その抗酸化性については同じく得られた普遍的に存在する3種の既知類縁成分と同程度であったため、特許の出願は困難と判断し、その成果を論文として報告した。</p>
<p>主な成果</p> <p>ごく一般的な抗酸化物質として知られるビタミンCよりも強い抗酸化性を示す1種の新規と3種の既知フラボノイド化合物の単離、構造決定に成功し、新規化合物についてはカメリアノシドと命名した。</p>
<p>研究成果に関する評価</p> <p>1 国内外における水準との対比 古くから研究が行われているツバキ葉から新規な抗酸化物質を発見したことは、多くの研究者が成し遂げることができなかつたことであり、単離、構造決定の技術は高い水準にある。</p> <p>2 実用化に向けた波及効果 当事業でツバキ葉中に抗アレルギー成分が含有されていることが判明しているが、今回得られた抗酸化性も併せることにより複合的なツバキ葉の機能性を提示することが可能となる。</p>
<p>今後の課題と研究開発方針について</p> <p>得られた抗酸化成分カメリアノシドについて、他の有効作用の解明が期待される。</p>